

古事記を読む会 37号(2018,3,11)



今年は、38・56以来の大雪とのこと。2月4日の「古事記の会」以後もまた大雪に見舞われました。しかし、3月3日を過ぎる頃、大地が雪を解かしすっかり春めいてきました。先日、新潟の瓢湖を訪れましたが白鳥のシベリアへの旅立ちが始まっていました。それでも餌場の水田の所々に、白鳥が佇んでいました。春ですね。

古事記を読む会も5年目の春となります。いつも会員の皆様から丁寧な提案をいただき、多くの刺激と学びを得ています。今後も、皆様の願いを以て進めていきたいと思えます。みんなで進めましょう。こんなことをしたい。もっと古事記を読みたい等々、ご意見をいただきたいと存じます。

さて、前会は、服部先生から「忌部氏(斎部)と大麻について」お話しいただきました。古代に祭祀を掌った氏族であり、現在も徳島県木屋平に忌部氏の末裔にあたる三木氏が麻を栽培し「あらたえ」という大嘗祭で着用の着物を作っていることを初めて知りました。

天の岩屋にて隠れた天照大神を岩屋から導くために天香具山の榊を掘取りその上方に八尺の勾玉飾りをつけ、中程の枝に八尺(やあた)の鏡をかけ、下方の枝には白い幣と青い幣をさげ、・・・ここで、青い幣とは麻で織った布である。麻の記載の最初の例である。・・・

「大麻」は神が宿る神聖な繊維とみなされ、国家の災厄を祓い豊穰を祈るにふさわしい品質の大麻を栽培し、加工する技術をもつことが忌部氏に課せられ、国造りにおいて重要な責務を果たし、また大きな影響力をもつことになっていたと言います。他にも服部先生は、ご専門の植物のことを詳しく解説いただき、また、魏志倭人伝にある卑弥呼が献上した班布は、大麻または苧麻とされることなど、麻に因んで多くの事を語っていただきました。

さらに、麻は身近な農作物であるとし、名前、地名が多く、万葉集にでてくる30首の紹介、解説等の一つひとつ丹念に書き記していただきました。ありがとうございます。

後半はイズミ先生からも「日漢英 s-k 音語の系譜」ということで15頁に及ぶ資料にて解説をいただきました。以下資料からイズミ先生のお考えを少し抜萃(資料参照)

s-k音については、スクスク(擬態語)をはじめ、スク[鋤](動詞)、スキ[鋤・隙・透](名詞)スクナヒコナ[少彦名](固有名詞)など、鉄利器伝来による日本列島改造、古代国家成立にかんする証言と思われる単語の用例が多数見られます。つまり、s-k音日本語は、鉄器伝来という世界史の流れの中で、ゆたかな単語家族として成長したことの証言と考えてよいでしょう。その点から見ても、日本語の内部だけでなく、「漢語・英語のa-k音との対応関係」についてできるだけ深くさぐりたいと考えています。

レジメには、1、s-k音の日本語、2、s-k音の漢語 3、s-k音の英語と論を進められ、例が詳説してあります。おわりにでは、イズミ先生は「動物の音声や自然界の音響をまねて、人間が自分の発声器官を調整し発音したことからコトバが生まれた」と自説を確認され、それを「形象言語説」という仮説として、納得にゆきまで検証作業を

続けておられることを紹介されています。しんどいが確かな検証事例にたどり着いたときの楽しさは格別と記されています。人類語としての共通の物差しで言語研究ができることを目標に日々研鑽されているイズミ先生の研究姿勢に深く敬意を表するものです。

今後の予定

3月11日（日） 針山氏の提案 勝興寺本「大織冠図」屏風から学ぶ です。
なお、年度なので、今年度の会計報告、来年度の予定などを確認したいと思います。
会員の皆様から、今後の進め方について、ご意見をいただければ幸いです。

次回は、 4月8日（日） 第二日
次々回は、 5月6日（日） 第一日 の予定です。

メ モ